

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】 【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	本学の使命（教育者の養成（理念）、人間形成（建学の精神）、地域に貢献できる人材養成（学則）等）を達成することを念頭に教育研究活動に精励することを目標としている。本学は広義で教育者を養成する高等教育機関であり、我々は教育者を養成する教育者である。学生に教えるということは、自らが試されていることであると捉え、教育内容の向上及び教育者としての資質を日々研鑽するよう努めている。 また、本学の使命に加えて、教育による専門職業人及び地域コミュニティを支える職業人・社会人の養成という地方の私立短期大学としての使命を鑑み、学生が地域での実体験を通して学修成果を獲得できるよう努めると共に、学長として本学が永続的に教育研究活動を行い、地域の人材輩出を担う使命を達成できるよう、大学運営や地域連携の活動を重視している。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	学科が当該科目に指定する目標（DP）を達成させることはもちろんであるが、教育者・社会人としての資質を向上させるような知識・技能を積極的に取り入れるように努めている。また、本学が目指す人材像を鑑み、人間的な関わりを大切にしている。学生にとって学長という肩書が障壁とならぬよう、言語的なコミュニケーションに限らず、非言語的コミュニケーション（柔らかい話し方、節度をもったカジュアルな服装、笑顔を意識した表情等）を意識しながら、一教員として双方向の授業が実現できるよう工夫に努めている。
授業以外（学生支援等）	第一に、学生との交流の中で目標を達成できるよう努めている。そのために、まずは意図的に学生と関わろうとする意識、次に具体的な行動が肝要であると考えている。授業が少なく、学生と関わる機会が少ないため、対面の交流に加えて、ICTも積極的に活用している。 第二に、学生のみならず地域の方にも、授業以外において知識・技能を享受できるよう、各種の講習会を開講し、実現に努めている。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	担当した授業「自然と環境」の授業アンケートからは、学生の評価は概ね高く（各設問の平均は4.1～4.7ポイント）、特に「授業への取組」「理解の促進」「教員の説明や姿勢」に関する項目では、肯定的回答（「そう思う」「ややそう思う」）が約7割前後を占めており、双方向的な授業運営と丁寧なコミュニケーションが一定の成果を上げたものと考えられる。 DP達成に向けた専門的知識の修得に加え、教育者・社会人としての資質向上を意識した取組、人間的な関わりを大切にしたい授業姿勢は、一定程度学生に受け止められたと評価する。
授業以外（学生支援等）	第一に、学生との交流機会の創出については、課外活動としてキャンパスインストラクター実技講習会を実施し、資格取得の有無に関わらず学生が主体的に参加できる場を設けた。実技を通じた協働的な学びと対話の機会により、学年や立場を越えた交流が生まれ、教育者として求められる実践力と人間的関係性の構築という目標の達成に資する成果があった。 第二に、地域貢献も兼ねた、チャイルドケアプラス（救急法講習会）を実施した。学生に加え地域の方にも参加いただき、子どもの安全に関する具体的な対応力を指導することができた。授業外においても専門的知見を社会と共有する機会を確保し、地域貢献と実践的学修の両立を図ることができた。

5. 目標 (今後どうするか)

授業	次年度担当授業無し
授業以外 (学生支援等)	今年度授業「自然と環境」に関して授業外での質問や相談があった場合には、学生の理解がより深まるよう丁寧に対応していく。また、学修内容を実践的な力へと結びつける観点から、救急法講習会の継続的な実施についても検討し、授業外においても知識・技能を発展させる機会を確保していきたい。

6. 重点目標に関する自己点検・評価 (特に努力した2項目)

教職員の責務	<p>学生・教職員のみならず、本学に関係するすべての方に対する言葉遣いや態度に常に配慮することを意識した。特に、自らの発言や対応に不十分な点があれば振り返りを行い、改善に努める姿勢を大切にした。</p> <p>また、学長という立場の影響力を自覚し、感情的な言動によって他者に負担を与えることのないよう、冷静かつ節度ある対応を心がけた。</p> <p>それら結果、教員として概ね適切な態度をもって勤務に精励できたと評価する。</p>
学修者本位の教育	<p>学生の理解度や関心に配慮しながら双方向的な授業運営に努めた。特に成績評価に関することは、ICTを活用した基準設定やフィードバックに注力し、学生が主体的に学びを深める工夫を行った。</p> <p>その結果、学生の主体的な参加や積極的な発言が見られるなど、学修者の視点に立った教育実践は概ね達成できたと評価している。</p>

7. 記載内容に関する根拠資料

①令和7(2025)年度	滋賀文教短期大学	シラバス	
②令和7(2025)年度	滋賀文教短期大学	科目別成績分布状況	
③令和7(2025)年度	滋賀文教短期大学	担任一覧表	
④令和7(2025)年度	滋賀文教短期大学	委員会構成名簿	
⑤令和7(2025)年度	滋賀文教短期大学	組織図	以上